

暮らした森林の共生

竹炭作りで築く山とのいい関係

鳥取市河原町湯谷に二〇〇三年暮れに新しい炭焼き窯が完成した。名前は「羽黒山活性化集団竹炭窯」(坂本満寿夫会長、十一人)、同町中井一集落(三十九世帯)の退職者たちが中心だ。集落の裏山の竹林から竹を切り出し、炭にして森林の環境保全と地域の活性化に貢献している。

近年、全国的に炭の効用が見直されて道の駅やホームセンターなどで生産している。



近年その活用方法が見直されて料理、消臭、水の浄化などに用いられる竹炭

販売されているのが目立つ。炭はその活用方法が大きく見直されて、炊飯や水の浄化などのほかに調湿、消臭、空気の浄化にも用いられる炭の持つ現代的な効用が注目を集めている。

活性化集団では竹炭に造花やリボンをあしらってラッピングした商品を開発し、竹酢液などと一緒に、町外からのお客様が増えた湯谷温泉の「湯谷荘」で販売している。メンバーの一人は「商品として販売するという意識が低く、作業

に集まった仲間が溜らぬ炭(た)いてしまうので大きな儲けにはなりません」と笑う。

河原町隣保館副館長の前田伸一さん(五七)、退職して農業を営む水本正人さん(五七)も仲間と炭焼きに精を出している。子どもと一緒に遊んだ裏山が「荒れている」と思ったのがきっかけだった。

前田さんたちはいわゆる「団塊の世代」で、子ども

のころは裏山と一緒に遊んだ。水本さんは「竹林は昔は柿畑などだった。森林が竹の勢いに負けて荒れていくのを見過ぎることができなかった」と振り返る。

竹の勢いはすさまじくやっこの思いで切っても一年すればタケノコが生えてくる。だが、竹を切ったところには何十年かぶりに明るいうらさしが見通せるようになった。前田さんは「竹を切つてやると山が元気になるのがわかる。森林への意識が変われば環境を守ることにつながる」と期待を込める。

同 集落では活性化集団のメンバーらが中心になって、集会所などを兼ねた交流館の建設、カジカガエルやホタルがすめる環境を取り戻す取り組みなどが始まっている。炭焼きはまさに地域の結束のきずなを太くして皆が支え合って暮らせる地域づくりに先鞭をつけた。水本さんは「森林の手入れを怠ったツケが回ってきている」と、うっそうとした竹林を前につぶやいた。



子どものころに遊んだ裏山が「荒れている」と思ったのがきっかけだった。竹を切り出し、青空が差し込む竹林に立つ前田さん(左)と水本さん

企画・編集

新日本海新聞社企画開発部

山陰両県の森林保全などに取り組むNPOなどが参加して「森林を守ろう!山陰ネットワーク会議」が設立されました。新日本海新聞社は活動の趣旨に賛同して同ネットワークなどの協力で森林保全の輪を広げる企画を来年3月まで随時掲載します。

森林保全活動レポート

その⑥



二度と草原は荒らさない。その決意をもって行動します。

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

鳥根県大田市の国立公園三瓶山。ここは江戸時代から和牛が放牧され、さらに農家の人々による草刈りや野焼きが長年にわたって行われていました。言わば、人間の営みが自然に働きかけ、草原景観を作りあげていたのです。しかし、農業を取り巻く環境の変化で、放牧や野焼き、採草が途絶え、それに伴い草原が荒廃していききました。

「二次的自然(里山などに代表される、人の手が長年入った自然)だから、これからも人間が手を加えないと、ますます自然が損なわれてしまう。」そう判断した結果、野焼きやイバラ刈りなどのボランティア活動を続けてきました。左の写真は、こういった努力の結果、やっとここまで草原が復元されたことの証拠。さらに、子どもへの啓発として年間を通して大田市立温泉津小学校の児童と一緒に「げんこつ山プロジェクト」という自然体験活動を展開しています。



「牛のうんこに混じっているシバの種は、とても育ちやすいんだよ。」初めて知る牛と自然のつながりに、子供たちは興味津々。

今後の活動予定

8/18(金)~8/25(金)
 <7泊8日>里山インターンシップさんぽ
 開催場所:鳥根県大田市
 対象者:18歳から25歳までの男女学生(学部・専攻不問)
 定員:12名。応募多数の場合書類審査
 参加費:30,000円(期間中の宿泊・食事・受講料を含む)
 申込方法:履歴書(写真添付)と応募理由(A4版1枚)を郵送
 締切:7/14(金)消印有効
 申込先:NPO法人緑と水の連絡会議まで
 「緑と水の連絡会議」ホームページで参加者の体験レポートが読めます。
<http://www.iwami.or.jp/ohgreen/>

今回の森林保全活動レポートその⑥に登場する

NPO法人 緑と水の連絡会議

平成4(1992)年に、草原や里山などの重要性を訴えることを目的としたNGO(非政府組織)として発足しました。その後、鳥根県の三瓶山で行われた和牛の放牧による草原再生を目的の当りつきの架橋に、農業と自然保護との関係について研究し始め、平成8(1996)年からはこの啓発活動を行ってきました。平成9(1997)年には、鳥根県・大田市とともに「全国草原シンポジ

ム・サミット」を開催。平成15(2003)年には、NPO法人に発展し、活動の幅も全国的になっています。

ボランティアに関するご相談は、「NPO法人緑と水の連絡会議」へ
 〒694-0064大田市大田町大田4376-1
 TEL:0854-82-2727
 問合せメール:ohgreen@iwami.or.jp

森林を守ろう! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみならず (6月18日現在) ※50団体



- 鳥取県
 - NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
 - NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
 - 広葉樹文化協会(鳥取市)
 - 財団法人 南部町地域振興会(南部町)
 - 大山横手道上ブナを育成する会(米子市)
 - 鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
 - 鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
 - トリネット(米子市)
 - 日野川の源流と流域を守る会(日野町)
 - 丸山生産森林組合(伯耆町)
- 鳥根県
 - 出雲市林業振興協議会(出雲市)
 - NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)

- NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
- 源流の森山づくり(邑南町)
- 財団法人 鳥根県西部山村振興財団(浜田市)
- 里山を育てる会(松江市)
- しまねフォレストネットワーク(出雲市)
- 薪ストーブ同好会(松江市)
- 松江ネイチャーゲームの会(松江市)
- 木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
- 森の仲間(出雲市)
- 遊木民倶楽部(益田市)
- 特別協力
 - 新日本海新聞社
 - 山陰中央新報社



この広告に関するお問い合わせは事務局まで
 山陰合同銀行 地域振興部内
 鳥根県松江市魚町10 〒690-0062
 TEL.0852-55-1820

